

トランシーバだけで EchoLinkに参加できる

ここでは手っ取り早く、手持ちのトランシーバ(無線機)だけで、EchoLinkへ参加する方法を紹介します。レピータ同様に、EchoLinkのいわゆるアクセスポイントの運用周波数や、トーン・スケルチの周波数がわかれば、図3-1のように、手持ちのトランシーバからもEchoLinkを利用できます。

EchoLink 公式 Web (<http://www.echolink.org/>) では、一部ノード(アクセスポイント)局の運用情報をリストで公開しています。また携帯電話の基地局や、無線LANのアクセスポイントと同様の役割をするノードの開設者などが、独自にWebで運用情報を公開している場合もあります。

● EchoLinkのノードをアクセスするには

アクセスする電波に重畳するトーン周波数の設定ができるトランシーバと、ノードの情報を得るためWebが見られることが重要です。ノードの多くは、混信防止のためトーン・スケルチを利用しているからです。ここ数年で発売されたV/UHFトランシーバであれば、たいていトーン・スケルチを内蔵していると思います。取扱説明書を参照ください。

また、トランシーバは、通称テンキーが付いているハンディ機でDTMF(電話のピポパ)が送出できると、電波によってノードを操作できます(写真3-1)。EchoLinkでは、ハンディ機などから既存のノードへ正常に電波が届いているかを含めた状態の確認や、そのノードを介してほかのノードへの接続切断と

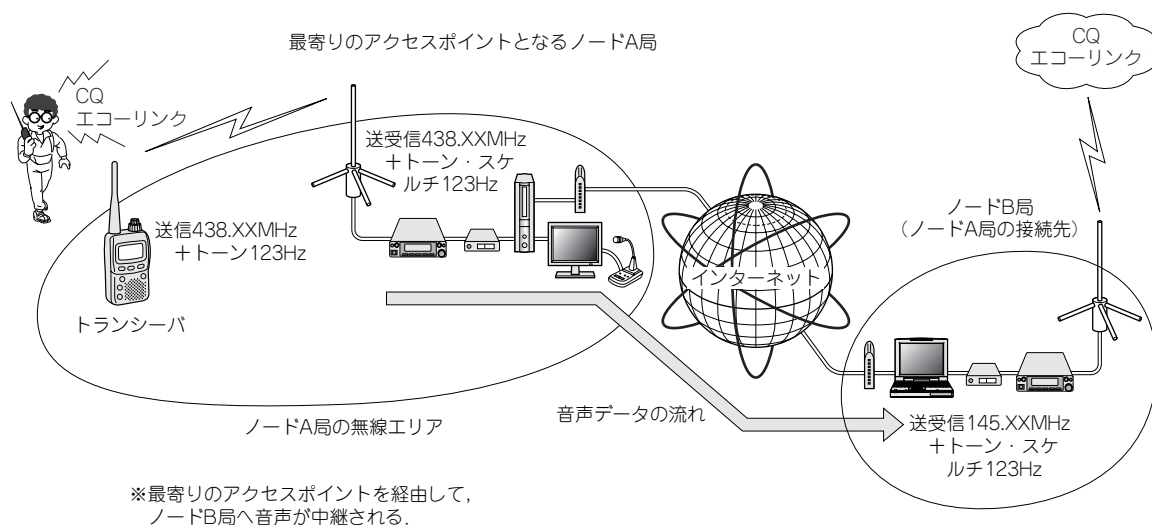


図3-1 トランシーバのみでのEchoLinkアクセスポイントであるノードを利用するイメージ